平成 25 年度　記者懇談会（第 9 回）の記録

日　時　平成 25 年 12 月 19 日（木）午後 3 時 00 分
場　所　水道庁舎 4 階 会議室
記者数　8 人
同席者　阿部副市長、上谷副市長、総務部長、環境部長
次　第　1　この冬の節電対策について
**　　2　その他について**

1　この冬の節電対策について

説明内容

（市長）

本日の案件でございますが、「今年の冬の節電対策について」でございます。

まず、この夏の節電につきましては、国・道・北海道電力から節電の要請があり、数値目標はありませんでしたが、北海道電力の発表によりますと、7・8 月の全道での節電実績はご案内のとおり、平成 22 年夏と比べて 9.1%削減という実績だったかと思います。

岩見沢市におきましては、昨年同様に節電推進対策本部を設け、7%以上の節電を目標に、市の庁舎をはじめとした公共施設の節電に取り組んだ結果、平成 22 年度と比較して 13.7%の節電を達成することができました。それぞれの施設では市民の皆さまにも大変ご協力をいただきましたことを、ここで改めて感謝を申し上げる次第でございます。

そこで、この冬の節電でございますが、市の取り組みといたしましては、夏に行いました節電対策に加えまして、暖房の室温を 19℃程度に設定する、ウォームビズの取り組みも行っているところでございます。

節電の目標としましては、国ならびに北海道電力からの要請は、平成 22 年度冬季の使用最大電力量より 6%以上の削減でございますが、昨年からの取り組み目標であります 7%以上の削減を今年の冬の節電の目標とした次第でございます。

また、電力需給がひっ迫するような状況を発生させないためにも、市民の皆さまへは、広報紙、あるいはホームページで節電のご協力を呼びかけさせていただこうと思っております。

しかし、この北海道は厳しい冬でございますので、これからだんだん寒気も厳しくなりますし、雪もこのままでは済まないかと思います。過度の節電で健康に支障をきたす、ということにはならないよう、できる範囲でのご協力をお願いする次第でございます。

質疑応答

なし

2　その他について（記者からの質問）

質疑応答

（北海道新聞）

2点ほど。まず名誉市民の話で、誰であろうと市政運営の評価というのは人によって違うと思うんでけれども、今回も多様な意見があったと思うんですけど、市長がまちづくりを進めるのはある意味、仕事として当然だと思うんでけれども、制度として、名誉市民という制度が果たして必要性があるのか、ということなんです。対象を民間人に絞ってもいいのではないか、という市民の声もあったんですけど、制度自体の存廃、あるいは対象を絞ることについて、どう考えていらっしゃるのか、というのと、他のまちでは、民間の会議みたいなところ、選考委員会に諮問した上で答申を受けて議会提案するところもあるんですが、そういう選考方法について、今後見直す考えはないのかということ。これは名誉市民についてなんですが、もう一点、全くの別件で、消費税の関係で、公共施設の料金とかあるいは給食費、水道料金の引き上げというのをどういうふうにお考えなのか、ということについてお聞きしたいと思います。

（市長）

まず1点目の名誉市民。制度そのものについては今、条例を設けて制度を導入しております。民間の方に対象を絞るかどうか、ということについては、条例上の制約はございません。ですから過去にも民間の方も名誉市民になっていらっしゃいますので、制度の運用上は、別に対象が縛られている訳ではない、ということになろうかと思います。

それから制度そのものについては、制定した当時と現在、さらにこれから将来、いろいろと状況も変わってくるのかな、というふうな気もしています。それについては慎重に、制度そのものについては検討することもあるのかな、というような気もしています。

それから消費税につきましては、まず水道料金等につきましては、これは条例上、地方消費税ということで、消費税については自動的に加算されるシステムになっていますから、当然加算されます。それから、公共施設の使用料金等々につきましては、予算の議論の中で進めておりますけれども、基本的には使用料プラス消費税、ということで考えています。その際、便乗値上げはしない、ということで、条例上は53本ぐらいでしたか、関係条例が確かそれぐらいあったかと思いますけれども、その抜き出しなどの作業も進めております。まだ決定した訳ではございませんけれども。

（北海道新聞）

かなり多岐にわたっての引き上げとなるのでしょうか。

（市長）

まず、現在の使用料、そのうち、内税として消費税がいくら、使用料本体がいくら、そういったものを整理しながら、今度それが8%になったときに内税としていくらになって、全体の使用料をどうするのか、そういったことも含めて検討中、ということでございます。

さきほど名誉市民のことで、選考方法についてのご質問もあったかと思うのですが、これは私の理解は、条例に基づけば、提案権が私にあり、私には決定権が実はないの

でございます。民間の方、もしくは市民の方の選考ということになりますと、まさしく市議会での議決が選考そのものだ、というふうに私は理解しております。

（読売新聞）

まったく岩見沢市と関係のないことなのかもしれませんが、今日、猪瀬知事が辞職ということになりまして、自治体の首長としてどんなふうにみていらっしゃるのかな、と思いまして、お聞かせいただければと思います。

（市長）

東京都の話ですので、私がどうこう言うものではないかと。

（毎日新聞）

来年、夕張は出すんでしたっけ。

（市長）

派遣職員については今、その方向で検討を進めてもらっています。

（毎日新聞）

向こうはまた 4 人入れ替わると聞いていますが。

（市長）

かなり人手が足りないというのは現実問題ですから。

（毎日新聞）

足りないし、給料安いし大変ですよ。

（市長）

うちから派遣する職員についてはうちから給料を払うので。

（毎日新聞）

駒澤の跡地は売れないですか。候補は出ないですか。

（市長）

出ないです。

（北海道新聞）

年末ということで、今年 1 年を振り返って市長ご自身と、市政を振り返ってどんな 1 年だったのかな、ということをお聞かせいただきたいのですが。

（市長）

自分自身のごくごくプライベートなことで言えば、こんなに 1 年って短かったのか、と思うくらい短い 1 年でした。生涯で一番短かった 1 年かな、と思います。同じ市役所の仕事ですけれども立場を代えてこの 1 年ということでいえば、色んな意味で組織的な協議ですとか、共通認識ですとか、市役所の組織の力を上げるとか、そういった意味ではいろいろと取り組めたのかな、という気はします。

それと自分自身はやはり市役所改革元年、実質的なということになるんだと思いますが、予算を編成し、その予算を執行する、事務事業を実施する、施策を実施するという段階で現場主義にも自分なりに徹したつもりですし、それを組織にも反映してきた、その努力だけはしてきたな、という気はします。

また今回は市議会でもお話ししましたけれども、行政改革大綱と中長期の財政計画と職員定員管理計画ということで、おおむね 10 年間の基本的な骨太の方針といいますか、そういったものをきちんと決めさせていただきました。これをしっかりとベース

に置いて、まずは、行財政環境はまだまだ厳しいですから、それをしっかり掲示しながらまちづくりをしっかりとやっていく、そういうことの土台ができたのかな、という気がしています。ただ、このことも含めて、評価いただくのは市民の方なので、自分自身はそう思っています。

（北海道新聞）

年末年始は連休になりますが、どこかに行かれたりするんですか。

（市長）

私自身は今のところ、何の予定もございません。

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）